

Art Exhibition 「時を纏い」

MW Artist in Living Home

小田川史弥 / 藤崎了一 / ホリグチシンゴ / 増田将大 / 三澤亮介



Art Exhibition

MW Artist in Living Home

本展は、建築の竣工後から限られた期間だけ開かれるエキシビションです。

「人は何を選び、何と生き、何を次代へ残していくのか」

—— その問いに向き合う、ひとつの実践として本展は生まれました。

アートとは、空間を装飾するためだけのものではありません。

感性や価値観に働きかけ、土地、作家、建築、そして家族の時間を結び直す存在です。

ひとつの住宅と呼応する作品、そこに暮らす人々、そして住宅そのもの。

それぞれが同じ時を重ね、暮らしとともに育ち、時を纏っていく。

アートと建築を通じて、時間を重ねることの豊かさを見つめ直す、新たな試みです。

MW Artist in Living Home

Art Exhibition 「時を纏い」

建築は、完成した瞬間から、時を纏いはじめます。

そして、時を重ねることを劣化ではなく、美しさとして引き受けます。

本展における作品はいずれも、時間を共作者として、

移ろいや痕跡を表現の一部として受け入れてきたものです。

時を待ち受ける建築とアートのあいだを巡り、

それぞれに流れる時間に触れること。

それは、この家と山手という土地が積み重ねてきた時間が、

新たな時を待ち受けることであり、

私たちが、これから重ねていく時間の始まりに立つことでもあるのです。

MW Artist in Living Home

schedule

予約制内覧会

9月11日（金）～13日（日） 12:00-19:00
（フォームからのご予約が必要です。）

OPEN HOUSE（一般展示公開）

9月17日（木）～27日（日） 12:00-19:00
（休廊日：月火水）

クロージングイベント

9月27日（日） 16:00-18:00

16:30よりスペシャルトークセッションを実施いたします。

Co-Founder & Chief Architect 松田仁樹 × 現代美術家 三澤亮介

MW Artist in Living Home



会場

神奈川県横浜市中区大和町2丁目55-6（JR山手駅徒歩3分）

アーティスト

小田川史弥 / 藤崎了一 / ホリグチシンゴ / 増田将大 / 三澤亮介

MW Artist in Living Home



小田川史弥 Fumiya Odagawa

1996年 神奈川県生まれ 東京藝術大学絵画科日本画専攻卒業、同大学院日本画専攻修了。
日常のささやかな瞬間を、幻想的でありながらも憂いを帯びた独特の世界観で描く。
モチーフとなる人物や動物、風景は、自身の経験や旅の中で目にした光景に基づき、
断片的な印象や心の痕跡がコラージュのように混ざり合い、ひとつの風景として構成され
る。日本画で培われた繊細な感覚は、余白や間を活かした画面構成、緩やかに視線が流れ
る構図、滲むように重ねられた淡い色彩となって、絵画空間に静かな物語を宿す。「誰か
と親密になるとき、同時にどこかで別の誰かが遠ざかっていくような感覚」に惹かれると
語り、関係の儚さと、それを包み込むような優しさが同居する作品を制作している。

2019年の初個展以来、東京都内を中心に個展を重ね、2025年には台北でも個展を開催。
One Art Taipeiをはじめとする国内外のアートフェアにも継続的に出展している。

MW Artist in Living Home



藤崎 了一 Ryoichi Fujisaki

1975年 大阪府生まれ 京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻卒業、
同大学院美術研究科彫刻専攻修了。

2015年より作家活動を本格的に再開し、身体を媒介として素材に向きあいながら、そこに起きる現象を抽出する立体作品を制作している。石膏や陶、石といった素材の性質そのものに委ねることで、蓄積されては変化していく形が立ち上がる。霧状に吹き付けた石膏が樹氷のように堆積し、そこへリキッドカラーを染み込ませてさらに重ねると、内側から色がにじみ出て、彫刻の奥行きと、形がつくられるまでに流れた時間が表面にあらわれる。自然が形をつくる時のプロセスを意識し、制作の過程にあえて偶然性や無作為な動きを取り込むことで、狙って生み出すことのできない美しさと迫力を引き出そうとする。素材の特性によって導かれる形を捉えたい、と語り、自らの身体感覚を出発点としながら、彫刻という枠組みそのものを更新する造形を探り続けている。

2020年には「sanwacompany Art Award/Art in The House 2020」ファイナリストに選出。

MW Artist in Living Home



ホリグチシンゴ Shingo Horiguchi

1993年 京都府生まれ 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業、
同大学院絵画専攻日本画研究領域修了。

イメージがどのように組み立てられ、どう見られるのかを、絵画を軸に写真やデジタル編集、コラージュを横断しながら検証している。素材に直接触れる手の作業と、パソコン上での編集やシミュレーションとを行き来し、その往復のあいだに生まれるずれや時間差を、そのまま画面へ取り込む。近年は薄い綿布にアクリル絵具で制作し、表から描いた絵具と裏から置いた色が透けて重なる構造をつくる。キュビズム以降の西洋近代絵画がもつ空間の組織と、東洋の絵画や書に見られる線や余白の意識をひとつの画面の中で衝突させ、単一ではない複数の時間が編み合わされた絵画を目指す。西と東が統合されないまま同居している日本という場所の感覚が、その時差の背景にある。様式を固定せず、技法や支持体、制作の工程そのものを作品ごとに組み替えることを重視している。

Idemitsu Art Award入選、第59回神奈川県美術展 県議会議長賞を受賞。

MW Artist in Living Home



増田将大 Masahiro Masuda

1991年静岡県生まれ 2020年東京藝術大学博士後期課程修了。

現在は茨城県にあるシェアスタジオ、STUDIO航大を拠点に活動。増田将大の作品は、対象となる何気ない風景を撮影し、その画像をプロジェクターで同じ場所に投影。再び同じ視点で撮影するというプロセスを複数回くり返し、さらにそれをキャンバスの上にシルクスクリーンで塗り重ねることで、多数の図像と絵の具の重なり、掠れを孕んだイメージを映し出す。このカメラとプロジェクターを用いたイメージの重なりとズレは、我々の生きているこの時間が、一瞬一瞬が連続する映画フィルムのように連なり、形づくっているのではと想起させる。芸術祭やコミュニーション制作では現地に取材に赴き、展示場所やその周囲の地域などで撮影を行い、展示場所に応じたサイトスペシフィックな作品制作も積極的に行っている。

主な展示に、「Scattered and Connected」（MARUEIDO JAPAN、東京／赤坂 2022年）、「VOCA展2020」（上野の森美術館、東京／上野）などがある。

MW Artist in Living Home



三澤亮介 Ryosuke Misawa

1992年 福井県生まれ 立教大学現代心理学部映像身体学科 卒業。

光を世界の営みと相似するものとして捉え、スケールの異なる現象を同一の構造として扱い制作を行う。不可視の光の顕在化を主題に、ペインティングを中心とした表現を展開。光をめぐる相対的な知覚のプロセスそのものを作品化する試みである。グラデーションやセパレーションといったオーセンティックな形式を通じ、個人的な知覚とより大きな時間の感覚が交差する“場”を立ち上げている。

2020年以降、都市や公共空間、建築空間を舞台としたアートプロジェクトに選出され参加している。2026年「TYPELESS_Vol.3」(一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント主催都市型アートプロジェクト)選出、2025年「第4回 枕崎国際芸術賞展」・「LIFE LAND SHIBUYA AWARD」遠山正道審査員特別賞。

MW Artist in Living Home